

中米貿易戦争から見る製造業のイノベーションシステム

今回の講演は、北京聯訊働力諮詢有限公司のジェネラルマネージャーで、南山工業書院の創立者でもある林雪萍先生を講師として招き、「中米貿易戦争から見る製造業のイノベーションシステム」をテーマにご講演いただいた。司会は清華大学社会科学学院副院長で社会学科の教授である李正風教授が務めた。満席の会場には上海から足を運んだ者もあり、盛況に終わった。

講演は、「なぜ世界の製造業は栄光を失ったのか」という問題提起から始まった。林先生は製造業の増加率と質の高い労働力が提供できていない現在の米国の傾向を分析し、また、過去数年で米国内の中国製造業への注目度が高まっている要因と背景についての見解を述べた。それらを踏まえ、今回の主なテーマである「世界の製造業」は変化の激しい情勢に晒されており、従来の経済システムを改革し、製造戦略の再設計が必要であるとのメッセージであった。

今回の講演は、米国の製造業の現状および中国における製造業の国家イノベーションシステムへの理解を深めることを目的に、主に4つの軸で構成された。一つ目にはアメリカのイノベーションシステムと製造イノベーションネットワーク、二つ目に米国の先進製造システムの攻防、3つ目に米国の四つの矢戦略について述べた後、最後に中国の最先端イノベーションに触れ、締めくくった。

林先生はまず、米国の強力な科学技術イノベーションと先進製造技術の発展を紹介した。米国は先進製造国家戦略を絶えず発展変化させることで、製造業の国際競争力を取り戻すため様々な試みを行なっている。具体例として米国の製造イノベーションネットワーク（NNMI）を挙げ、「製造とイノベーションの融合」の試みについて述べた。次に、米国の先進製造技術が工業分野において競争力を維持し且つトップの座を維持し続ける秘訣と戦略について、先進製造業の評価分析を基にした見解を紹介した。さらに、米国の4つの戦略、すなわち先進製造、基礎循環の促進、貿易関税、貿易戦争の背景にある科学技術競争の重要性を強調した上で、米国の対中の新戦略と経済を巡った2カ国間の緊張の高まりについて説明した。その後、中国政府と企業のR&D投資に焦点を当て、中国のハイテクイノベーションの概要とその発展、イノベーションの光と陰つまりはジレンマと画期的な機会について解説した。

林先生は最後に、米国の製造システムは修復段階に入っており、対中の科学技術封じ込め政策は貿易戦争とは無関係であると述べ

た。さらに、中国の製造サプライチェーンは防衛戦に備えた再設計が必要であり、大規模なイノベーションシステム構造改革を迫られている。講演は3時間にも及んだが、講演後の質疑応答の時間には聴衆から積極的な質問が飛び交い、講師との熱い議論が行われた。